

「都心の災害を考えるワークショップ実施と 展覧会の開催」プロジェクト

代表者 橋田規子【教授】（デザイン工学部デザイン工学科）

構成員 吉武良治【教授】、梁元碩【准教授】（デザイン工学部デザイン工学科）

プロジェクトの概要

このプロジェクトは、近年都心で頻繁に起こるゲリラ豪雨による水害をテーマにしている。具体的には水害対策として一般に使われている土のうについて、保管性や使い勝手を考えた新しい提案を行うものである。

現在、学生参加者を募り、プロのデザイナーの指導に基づいて展示内容について検討中。成果物について展覧会を行うことで地域の人々に水害対策への意識付けを行う。会場は、研究支援課の協力により、みなとパーク芝浦（芝浦港南地区総合支所）で開催することが決定した。「災害とボランティア週間」2017年1月16日から1月20日の期間で展示を行う。

COC活動の成果

■教育

- 都心部の災害を考えるワークショップ（ゲリラ豪雨について）
 - ・ 都市の水害とはどういうものか現状とその問題点を知ることができた。
 - ・ 都市の水害について、港区協働推進課の方によるガイダンスを実施。
 - ・ 都市の水害についての知識を得ることができた。
- デザインによる問題解決手法を知る。
 - ・ デザインの専門家によるレクチャー実施→社会問題をデザイン的手法で解決した実施例を知ることができた。

■研究

- 都心部の災害を調査する。
 - ・ 都市の水害についてどのようなものがあるか、目に見える形で表現することができた。浸水の土地の特徴、危険地帯がわかるハザードマップなど。
 - ・ ゲリラ豪雨時の浸水の状況と土のうの使われ方を調査する。
- 調査結果からターゲットを絞り、災害対策のための提案を行うことができた。
 - ・ 土のうについて、保管や使い勝手を考え、どのような形態や素材が相応しいのか、探求した。

■地域貢献

- 研究成果の展覧会を実施し、地域の方々へ、災害の対策など考える機会を提供する。
 - ・ 災害とボランティア週間2017年1月16日から1月20日の期間で展示を行うことができた。
 - ・ 港区芝浦港南地区協働推進課の協力により、館内での展示を実施することができた。展示期間中は学生が立ち会い、来場した地域の人に説明を行い、水害についてコミュニケーションを図ることができた。

おわりに

本プロジェクトは具体的なテーマとして、水害対策で使われる「土のう」について、保管方法や使い方の問題点を抽出し、それらを解決するアイデアを検討していった。学生にとって普段目にしない「土のう」であったが、ガイダンスや現場調査などで知識を得、作品展示までを行うことができた。

今回は5名のプロのデザイナーを講師とし、コンセプト構築から作品作り、プレゼンテーションまで丁寧な指導をしていただいた。ここに感謝の意を表する。



【実験風景】ミニチュアモデルにおける水害シュミレーション



【展示風景】みなとパーク芝浦での展示



【作品事例】土のうの保管場所を知らない人が多いという現状から、交番と土のうステーションを合体することで解決しようとする提案